



Title	日系ブラジル人の生活と日本人との交流：県営A団地で生活する人々を事例に
Author(s)	都築, くるみ
Description	第2部 公営住宅の日本人と外国人：愛知県豊橋市県営A団地を事例として
Relation	地域生活における外国人と日本人の関係. 小内透編. (外国人集住地域の社会学的総合研究；その7)
Citation	『調査と社会理論』・研究報告書, 27, 63-83
Issue Date	2009-03-24
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/38191
Type	departmental bulletin paper
File Information	4_p63-83.pdf



日系ブラジル人の生活と日本人との交流

——県営A団地で生活する人々を事例に——

都築くるみ

はじめに 研究課題

本稿は、A団地に居住する日系ブラジル人と日本人住民との間の交流について、ブラジル人側からみた生活部分を明らかにするものである。日系ブラジル人は地域社会で日本人住民とどのような交流やコミュニケーションをおこなっているのか、定住についてはどのような志向性をもっているのかを明らかにすることである。

データは前掲浅川論文と同じものを使用する。浅川論文では、A団地に居住する日系ブラジル人の労働世界について明らかにした。これに対し、本稿では、A団地に居住する日系ブラジル人の生活面に視点を移し、地域社会での日本人との交流の現状を考察するものである。なお、2006年9月に団地内でおこなった、インタビュー調査結果もデータとして用いる。

第1章 日本人住民との交流

はじめに

A団地は、豊橋市の東部にある居住戸数が652世帯という県営住宅である。豊橋市の中心部からバスに乗って30分ほどで団地につくと、正面玄関のすぐ右側に団地自治会の集会所があり、目の前には子ども達が遊ぶ公園がある。その奥には5階建ての集合住宅が16棟並んでいる。団地の集会所で、筆者が町内会長さんにお話を聞いていると、この集会所にはよく人が出入りしている。公園で遊んでいる子ども達が「屋根にボールが上がってしまったので、取って下さい」とか、ブラジル人の女性が町内会の行事について聞きに来たり、また役員同士が何か仕事をしていて、その人たちを目当てに一般の住民の人が遊びに来たり……。和やかな集会所の雰囲気である。

団地の役員さんに、筆者が「ブラジル人の方でお話を聞かせて頂ける人を紹介して下さいませんか」とお願いすると、たちどころに数人の候補者を挙げ、電話をして下さる。また団地の入り口の反対側にあるブラジル食材店（食材、CDレンタル、またここにはブラジルの方が自分で作ったという農作物もおいてある）に気軽に連れて行ってくださり、その店の方や、その店に買い物に来る人に声をかけたりして紹介して下さる。ここでは外国人側からみたA団地での日本人との交流をみてみる。

第1節 日本人の友人、面識のある日本人

このA団地に住む外国人の方からみた日本人との交流はどのようなものであろうか。本調査では、「あなたには現在、日本人の友だちはいますか」「あなたは、現在、同じ団地の中に面識のある日本

人はいますか」と質問した(表1)。

「日本人の友人がいる」と答えた人は66.7% (76人、N=114人) であり、団地内に「面識のある日本人がいる」と答えた人は60.0% (69人、N=115) である。これは日本人住民側に聞いた「あなたには現在外国人の友人がいますか」について「はい」が43人 (22.6%、N=190人) であったのより多い。また、日本人側に聞いた「面識ある外国人がいる」のは、67.2% (123人、N=183人) であり、「同じ棟内にいる」のが68.0% (100人、N=147人)「他の棟にいる」が32.0% (47人、N=147人) であった(本報告書の前掲都築論文.)。友人、面識のある日本人ともに、複数の人数を挙げている人が多い(表2)。

表1 日本人との交流(友人の有無、面識ある日本人の有無)

「あなたには現在、日本人の友だちはいますか」

「あなたは、現在、同じ団地の中に面識のある日本人はいますか」

	いる	いない	合計
1 日本人の友人	66.7(76)	33.3(38)	100(114)
2 面識ある日本人(団地内)	60.0(69)	40.0(46)	100(115)

表2 交流関係(日本人の友人数、団地内の面識のある人の人数)

	友人数	団地内面識のある人
1 1人	3.1(2)	6.5(4)
2 2～3人	24.6(16)	30.6(19)
3 4～5人	24.6(16)	14.5(9)
4 6～10人	32.3(21)	33.9(21)
5 11～20人	9.2(6)	11.3(7)
6 21人以上	6.2(4)	3.2(2)
合計	100(65)	100(62)

第2節 日本人住民との面識をもつようになった契機は何か

それでは、団地内で面識を持つようになった契機はどのようなものであったのであろうか。

「団地の中に、面識のある日本人」が「いる」と答えた人に、知り合ったきっかけについて、質問した(複数回答)。その中で、最も多かったのは①「近所で顔を合わせるうちに」(60.8%、45人)、次に②「仕事先を通じて知り合った(仕事が同じ、仕事の関係など)」(44.6%、33人)、そして③「町内会活動(お祭り、清掃活動、など)を通じて」(43.2%、32人)であった。次に来る理由としては、④「子供を通して知り合った」「学校関係で知り合った」が共に、18.9%、14人である(表3)。

これを日本人側から見ると、①「町内会活動を通して」(43.7%、86人、N=197人)、②「通りがかった際に顔をあわせるうちに」(16.8%、33人)、③「子供を通して」(12.2%、24人)、④「仕事先を通じて」(10.2%、20人)であった(前掲都築論文.)。

これらを考えあわせてみると、日本人側は町内会活動が大きなきっかけとなっているが、外国人側は、それ以上に、近所で顔を合わせるうちに自然に、という感じでの面識を得ているようである。いずれにしても、双方とも(1)日常的な近隣関係と(2)学校、子供を通して、の2つの要素で知り合うことが多いと言えよう。

表3 日本人と知り合った契機
「日本人の方たちとどういうきっかけでお知り合いになりましたか」

	いいえ	はい	合計
1 近所で顔をあわせて	39.2(29)	60.8(45)	100(74)
2 ゴミ出しの時	85.1(63)	14.9(11)	100(74)
3 町内会活動を通じて	56.8(42)	43.2(32)	100(74)
4 子どもを通して	81.1(60)	18.9(14)	100(74)
5 学校関係	81.1(60)	18.9(14)	100(74)
6 日本人の住民を通して	87.8(65)	12.2(9)	100(74)
7 外国人の住民を通して	87.8(65)	12.2(9)	100(74)
8 仕事先を通して	55.4(41)	44.6(33)	100(74)
9 その他	97.3(72)	2.7(2)	100(74)

第3節 日常的につきあいのある外国人

それでは、外国人住民はお互いに外国人同士、どのように交流をしているのだろうか。日常的におつきあいのある外国人の友人について、「1 団地内」と「2 その他の地域」の地域ごとに質問した。

団地内では、表に見るように複数名の外国人と交流があることが明らかである。団地内では、多い順に①「6～10人」(32.0%)、②「2～3人」(20.0%)、③「11～20人」(17.3%)である。団地外では、①「6～10人」(29.9%)、②「4～5人」(23.9%)、③「21人以上」(19.4%)である(表4)。外国人の友人との交際は、今回の来日時期、現住所への来住時期とは有意差はなかった。

表4 交流関係

	日常的につきあう外国人	
	団地内	団地外
1 1人	4.0(3)	3.0(2)
2 2～3人	20.0(15)	10.4(7)
3 4～5人	14.7(11)	23.9(16)
4 6～10人	32.0(24)	29.9(20)
5 11～20人	17.3(13)	13.4(9)
6 21人以上	12.0(9)	19.4(13)
合計	100(75)	100(67)

第2章 町内会への加入と町内会行事への参加

第1節 町内会への加入

町内会活動は、前章で述べたように、日本人住民と外国人住民とが知り合うためのきっかけになっている。A団地の外国人は町内会にどのように加入し、行事や活動に参加しているのだろうか。この町内会の日本人役員さんは、当初から「うちは100%加入してもらっている」と言っているが、実際の外国人住民自身の認識では、「はい」と答えているのは61人(53.5%)である(表5)。これはこの質問票に答えた人が必ずしも、加入しているという自覚があるとは限らない、ということではないだろうか。これについて、役員さんに確認してみると推測通りであった。

「ああ、それは勘違いでしょうね。うちは100%加入していますもの。町内会費ももらっています。町内会は世帯ごとに加入するから、きっとそのアンケートに答えた人は、自分が入っている

とわかっていないんじゃないですか？」（町内会役員Aさん。2009年1月、電話でのインタビューによる。）

表5 町内会への加入
「あなたは団地の『自治会』に入っていますか」

1 はい	53.5(61)
2 いいえ	39.5(45)
3 わからない	7.0(8)
合計	100(114)

第2節 町内会行事への参加と行事内容

町内会に「入っていない」と認識している人も、町内会の行事には参加している。81.1%が「参加している」と答えている（表6）（従って、やはり「入っていない」と答えている人も世帯としては加入しており、行事への勧誘に応じて参加しているのだろう）。そしてそのうち、最も参加の多い行事が①「団地の清掃活動など」である（88.9%、80人、N=90人）。次が②「お祭り」（33.3%、30人）、③「子供に関する行事」（14.4%、13人）であった（表7）。

この団地では各自の居住棟や周辺部、共有の集会室や公園などの清掃活動を毎月1回、共同作業としておこなっている。作業に出た場合、日当は支払われないが、逆に作業に出なかった場合、出不足料を2,000円支払うことになっている。環境美化活動については、外国人住民にもよく周知されているようである。その他の活動としては、納涼祭、餅つき大会、防災訓練などに最も多くの住民が参加しているということである。

（納涼祭について）「この間、納涼祭りやったばかりですが、だいぶね、ブラジルの方の意識もね、少しずつご理解していただいてきております。まっ、最初はほんとにね、4、5年前くらいまでは、箸にも棒にもかからん部分もあったんですが、やっぱり、国際間の溝みたいなもんですわな。これは文化の違い、言語の違い、習慣の違い、これはいろんなものがありますから。それが少しずつ、溝が埋まってきた・・・。」

（防災訓練について）「特に、これから11月防災訓練をやりますが、地震の体験者などに来ていただきましてね。市と協力をいただいてやるのですが、あれなんかブラジルの人のほうが、参加者多いですよ。これは地震に対する免疫が日本人のようにないんですよ。地震のない国だから。こっちに来て地震を経験している人はやっぱり地震の怖さを知らない。ブラジルだと経験無いよな。」「一度、中越地震の頃ね、震度4くらいのが二度ほど来たんですよ。その時は夜中に、そこに会議室があるのですが、そこで夜明かしした人がいる。10人くらい、いたんですよ。帰れないんですよ。ブラジルの方・・・。そこ、9月ぐらいかな。暑かったね。そこ開放して、朝までいた人が10人くらいいた。そういうこともあって、その年からはじめた防災訓練なんか積極的に出てくる。台風はどこの国行ってもありますが。地震はないみたいだ。みんな地震は怖がるもの。」（町内会役員Aさん。2006年インタビューによる。）

これまでの筆者が行った他地域での調査を振り返ってみても、外国人住民の町内会活動の参加において、最も参加率の高いものは、環境美化的行事であった。娯楽的行事より環境美化的行事に多

く参加があるのは、環境美化的行事が義務的であると認識しているからであろう。外国人住民は、団地に居住するならば、居住マナーを守るということが浸透されていることによるものでもあろう。

表6 町内会行事への参加の有無
「あなたは『自治会』の行事に参加したことがありますか」

1 はい	81.1(90)
2 いいえ	18.9(21)
合計	100(111)

表7 町内会参加行事
「あなたは『自治会』行事に参加したことがありますか。それはどのような行事ですか」

	お祭り	団地の清掃	子どもの行事	その他の行事
1 いいえ	66.7(60)	11.1(10)	85.6(77)	96.7(87)
2 はい	33.3(30)	88.9(80)	14.4(13)	3.3(3)
合計	100(90)	100(90)	100(90)	100(90)

第3節 町内会行事への参加理由

また次に述べるように、町内会行事への参加のきっかけは、日本人役員や日本人住民による誘いに応えたものであることがわかる。最も多いのが、①「日本人の自治会役員に誘われたから」が59.2%（45人、N=76人）であり、次に多いのが、②「日本人の知り合いに誘われたから」（15.8%、12人）である（表8）。こうした勧誘は、以下の章で述べるように、日本人役員の日常的な活動によってなされていることが明らかである。

表8 町内会行事参加理由
「なぜ、その行事に参加したのですか」

1 日本人の知り合いに誘われたから	15.8(12)
2 外国人の知り合いに誘われたから	5.3(4)
3 日本人自治会役員に誘われたから	59.2(45)
4 外国人自治会役員に誘われたから	6.6(5)
5 その他	13.2(10)
合計	100(76)

第3章 町内会活動への参加

第1節 役員経験はあるか

外国人住民は町内会活動にどのように参加し、活動しているのだろうか。A団地では、各棟の居住者名簿が作成されており、外国人住民の居室も特定されている。組長や各専門委員（子供会、運転者協会兼防犯、社会教育、国際交流、など）への依頼も日常的になされているようである。

例えば平成18年度の役員名簿をみると、会長、副会長（4名）、会計、会計監査（2名）、書記などの役員の他、専門委員が各種ある。名簿でみると、日系ブラジル人の組長は、組長としての仕事以外に、副会長、環境美化、社会体育、国際交流部、翻訳・通訳、通訳などの代表に就任している。

副会長は三役の一翼を担う重役であり、この副会長に就任している日系ブラジル人は、流暢な日本語を話すばかりではなく、会長の相談役として町内会全体の仕事内容について支えている。

組長については、団地全体で16棟に67人いる組長のうち、30人の日系ブラジル人住民が組長になっている。翻訳・通訳の委員は、日常的に自治会関係のものを翻訳したりしている。この貢献は町内会にとっては大変大きい。

外国人住民からの回答では、「組長」の経験者が最も多く（87.3%、55人）、その他では「専門委員」がわずかにいる（4.8%、3人）（表9）。A団地に住む日系ブラジル人のXさん（女性、60歳代、2世）は、A団地に15年住んでいる¹⁾。「組長は、入って2～3年で『やって』と言われたのでやりました。2、3年前にまたやりました。大変ではなかった。国際交流部はやっていないです」と述べている。

日本人役員は、外国人住民に役員としての仕事にも期待しているようである。以下にどのような期待をしているか紹介する。

（通訳・翻訳について）「翻訳となりますとね、これは漢字が全部通読できないとまずいんですよ。当たり前ですけどね。なかなかいけませんでね。それでここは幸いそういう方が何人か、居住されているんですけど。まあ、そういう人材には恵まれていますけど。まず新聞が読めないと無理ですね……。時間かけてじっくりというならば別ですけど。ワープロで、“たったった”とね、流していくとなると……。」

（国際交流部について）「国際交流部というのを私になってから作ったんですが、必要になってきているんですよ。時節柄ね。」「このA団地では、スポーツの代表の方と国際交流部の代表の方がブラジルの方ですね。国際交流部はですね、一応ブラジルの方との橋渡しですから、代表はブラジルの方がなっています。」

（会長、副会長などの役員就任について）「現在、副会長も（1人は）ブラジル人ですね。ただ、時節柄ね。たとえば、会長もね、“国籍を問わず”というところに、そろそろいこうかなと思っているのですが。まだね、言葉の問題とかあるのでね。日本人の閉鎖性とかあったりね。われわれがブラジル人の方相手に苦労している以上にね、未だ時期尚早という気がしているんで、会長だけはね、一応、日本国籍の方で、脇は、おいおい考えていく時期に来ていると思います。」

（ブラジル人のなかで、会長をやりたい人というのは、ぼちぼち出られているのですか）「いるんじゃないですか。今現在はいないですが……。今いない、というのはね、会長職というのは要するに雑用が多くてね。ここには校区というのがあるんですがね。小学校単位で。そことのイベントいろんな連絡等もありますね。そういうのを含めてね、それこそ滅私奉公になっちゃってるんで、働き手の年齢層は無理ですよ。そういう意味では。日本人でも無理ですから。（ブラジルの方は）働く目的で来日されている人が多いですから、やっぱり、ちょっと無理かな。酷かなという気がします。能力的には分かりませんが、そうじゃなくて、酷かな。ね。かわいそうだよなという気がしますよね。」（町内会役員Aさん。2006年インタビューによる。）

表9 外国人住民の役員経験

「あなたは『自治会』の役員を担当したことがありますか」

	組長	班長	会計	専門委員	役員
1 いいえ	12.7(8)	100(63)	100(63)	95.2(60)	98.4(62)
2 はい	87.3(55)	0(0)	0(0)	4.8(3)	1.6(1)
合計	100(63)	100(63)	100(63)	100(63)	100(63)

第2節 行事への勧誘はどうかされるか

通常、外国人の集住地域では、ゴミの分別方法がポルトガル語で作成され、外国人住民に配布されているということはよく見られるが、A団地では、その他に居住者名簿が作成されたり、ポルトガル語と日本語併記の挨拶を書いたチラシを配布したり、防災マップが作成されていたりしている。このような活動に外国人住民が通訳や翻訳の面で日常的に貢献している。

日本人側は、①行事の内容や町内会活動（議事録なども）をプリントにして会場で配布する。②掲示物を掲示板に貼る。③回覧板にしまわす。①～③は2、3カ国語で書かれている。④緊急時や必要時には、団地内にマイクで放送する。日本語の後、ポルトガル語で通訳をしてもらう。このように常に外国人住民の協力が必要であるし、現在そういう体制になっている。

第3節 近所に住んでいる外国人の町内会活動への参加の認識

近所に住んでいる外国人は、他の外国人が自治会活動や行事参加していると認識しているのだろうか。これについて質問してみた。「多くの外国人が参加している」（31.6%、31人、N=98人）と「ある程度の外国人が参加している」（55.1%）をあわせて、86.7%もの外国人が参加していると認識している（表10）。

表10 近隣外国人の自治会活動参加

「近所に住んでいる外国人は、自治会の活動や行事に参加していますか」

1 多くの外国人が参加している	31.6(31)
2 ある程度の外国人が参加している	55.1(54)
3 外国人はあまり参加しない	12.2(12)
4 外国人はまったく参加していない	1.0(1)
合計	100(98)

第4節 外国人も町内会活動に参加したほうが良いか

それでは、外国人本人は、外国人も町内会活動に参加したほうが良いと思っているのだろうか。「外国人も積極的に参加した方が良い」（59.1%、65人、N=110人）が最も多く、次が「外国人の意志にまかせるのが良い」（27.3%、30人）である。「外国人もある程度参加した方が良い」（11.8%、13人）も加え、概ね肯定的に認識している（表11）。

日本人住民に、「近所に住んでいる外国人は、町内会の活動や行事に参加していますか」と質問したところ、「ある程度の外国人が参加している」（62.6%、114人、N=182人）、「多くの外国人が参加している」（22.5%、41人）との認識であり、また「近所に住んでいる外国人は町内会の活動に参加した方が良いでしょうか」については、「積極的に参加した方が良い」（51.4%、95人、N=185人）、「ある程度参加した方が良い」（33.5%、62人）であった。日本人も外国人も、外国人自身の活動を期待しあるいは、必要性を認識している。

表11 外国人の自治会参加の是非
「自治会活動に外国人も参加した方が良いでしょうか」

	外国人	日本人
1 外国人も積極的参加が良い	59.1(65)	51.4(95)
2 外国人もある程度参加が良い	11.8(13)	33.5(62)
3 外国人の意志に任せる	27.3(30)	12.4(23)
4 外国人には参加してほしくない	1.8(2)	2.7(5)
合計	100(110)	100(185)

第5節 近隣交際の意識

外国人住民は近隣交際について、どのような交際が望ましいと思っているのであろうか。外国人住民は、どちらかと言えば、「堅苦しくなく話し合えるようなつきあい」(47.5%)や、「何かにつけ相談したり、助け合えるようなつきあいが良い」(34.7%)と考えており、「互いに干渉せず、できるだけつきあわないのが良い」というような無干渉を望んでいない(表12)。

また、こうした意識は、「日本人の友人がいる」あるいは、「面識のある日本人がいる」という点については「友人」や、「面識のある人」がいるか否かにかかわらず、有意な差はなかった。他の地域での調査と同様に、外国人は日本人よりも濃密な近隣関係を望んでいるが、日本人自身は、日本人自身がそれほど濃密な近隣関係を望んでおらず、相手が外国人だからではなく、常にここで両者間の齟齬がみられるところでもある。

表12 近隣交際の意識
「隣近所とのつきあいの仕方について、どれが望ましとお考えですか」

1 堅苦しくなく話し合えるようなつきあいが良い	47.5(56)
2 会ったときに挨拶するくらいのつきあいが良い	17.8(21)
3 なにかにつけ相談したり、助け合えるようなつきあいが良い	34.7(41)
4 互いに干渉せず、できるだけつきあわないのが良い	0(0)
合計	100(118)

第4章 生活上の問題について

第1節 生計費の負担

それでは、生活上にはどのような問題があるのか。日常生活は円滑にいつているのだろうか。以下でみてみよう。

まず、外国人の家庭においては、生計費の中でどのような項目が特に負担になっているのだろうか。負担感の多いものから、①食費(69.7%)、②税金(52.1%)、③子どもの教育費(39.5%)、④健康保険料(36.1%)、⑤水光熱費(34.5%)などである(表13)。子供の教育費については、学齢期の子供がいる人がすべて負担と思っているわけではなかった。

表13 生計の負担

	食費	住宅費	水光熱費	被服費	医療費	教育費
1 いいえ	30.3(36)	83.2(99)	65.5(78)	90.8(108)	82.4(98)	60.5(72)
2 はい	69.7(83)	16.8(20)	34.5(41)	9.2(11)	17.6(21)	39.5(47)
合計	100(119)	100(119)	100(119)	100(119)	100(119)	100(119)

保険料	自動車関連費	交通費	税金	電話代	教養・レジャー
63.9(76)	92.4(110)	92.4(110)	47.9(57)	82.4(98)	93.3(111)
36.1(43)	7.6(9)	7.6(9)	52.1(62)	17.6(21)	6.7(8)
100(119)	100(119)	100(119)	100(119)	100(119)	100(119)

第2節 保険

次に、保険と病気について見てみよう。保険に関しては、加入している保険すべてを聞いたところ（複数回答）、多い順に①「国民健康保険」（43.9%、50人）、②「その他の保険」（33.0%、38人）、③「無保険」（17.4%、20人）、④「海外傷害保険」（10.4%、12人）である（表14）。外国人が来日した当初では無保険者が多く、いざ病気となり大きな手術となった時にあわてて加入したという事例や、旅行保険に加入して来日したという事例も聞いた。現在は国民保険もよく知られるようになり、保険についてのトラブルはあまり聞かない。

表14 保険・年金の加入

	国民健康保険	海外傷害保険	生命保険	国民年金	介護保険	その他の保険	無保険
1 いいえ	56.1(64)	89.6(103)	98.3(113)	90.4(104)	98.3(113)	67.0(77)	82.6(95)
2 はい	43.9(50)	10.4(12)	1.7(2)	9.6(11)	1.7(2)	33.0(38)	17.4(20)
合計	100(114)	100(115)	100(115)	100(115)	100(115)	100(115)	100(115)

ここで、A団地に住むYさんとZさんのインタビューを紹介しよう²⁾。二人とも保険に加入している。Yさん（女性、40歳代、2世）は、日本には1991年来日し、17年間滞在している。その間、ブラジルと日本の間を行ったり来たりしている。Yさんは、今でもブラジルの保険（年金）と日本の保険の両方かけているそうである。「ブラジルの保険は、主人のお母さんがかけてくれています。お母さんにブラジルの私の家をあげたので、その代わりに保険の掛け金を出してくれている。でも、もうそろそろ、こちらからお金を送らなくてはと思っています」。Zさん（男性、60歳代、2世）は、社会保険に入っている。「給料は安い。家賃、社会保険、ガス・電気を払うと残らない。会社の同僚のブラジル人は皆社会保険に入っています」とのことである。

第3節 病気

病気に関しては、受診経験がある人は81.7%（89人、N=109人）と高い（表15）。また受診時に困ったことについては、①「保険証がないため料金が高かった」（23.6%）。②「医者や看護師とことばが通じない」（21.3%）である。「薬の処方がわからない」（5.6%）ということもある（表16）。

表15 病院で受診経験があるか

1 ある	81.7(89)
2 ない	18.3(20)
合計	100(109)

表16 病院で困った点

	無保険証	言語不通	受信拒否	処方無理解	その他
1 いいえ	76.4(68)	78.7(70)	98.9(88)	94.4(84)	93.3(83)
2 はい	23.6(21)	21.3(19)	1.1(1)	5.6(5)	6.7(6)
合計	100(89)	100(89)	100(89)	100(89)	100(89)

第4節 現住所でのトラブル

それでは、現住所に住んでからどのような生活上のトラブルがあったのだろうか。「現在の住所に住んでからの生活で、これまでにトラブルを経験したことがありますか」について、質問したところ、「トラブルはなかった」が91.8%（101人、N=110人）であった。「あった」と答えた人はわずかに9人（8.2%）であった（表17）。選択肢として示したトラブルは、「ゴミ出しの方法がわからずに、注意を受けた（0人）」「部屋で騒いでいて苦情を言われた（2人、1.8%）」「何もしていないのに罵声を浴びせられた（1人、0.1%）」「何もしていないのに警察に尋問された（0人）」「店で商品を買ってもらえなかった（1人、0.1%）」「病院で診療してもらえなかった（1人、0.1%）」「ジロジロ見られたり、言いがかりをつけられたりした（0人）」「声を掛けたのに無視された（0人）」、などである。

表17 現住所でのトラブルがあったか

	なかった	あった	合計
1 ゴミ出しの方法がわからず注意を受けた	100(110)	0(0)	100(110)
2 部屋で騒いでいて苦情を言われた	98.2(108)	1.8(2)	100(110)
3何もしていないのに罵声を浴びせられた	99.1(109)	0.9(1)	100(110)
4何もしていないのに警察に尋問された	100(110)	0(0)	100(110)
5店で商品を買ってもらえなかった	99.1(109)	0.9(1)	100(110)
6病院で診療してもらえなかった	99.1(109)	0.9(1)	100(110)
7ジロジロ見られたり、言いがかりをつけられたりした	100(109)	0(0)	100(109)
8声を掛けたのに無視された	100(110)	0(0)	100(110)
9その他	96.4(106)	3.6(4)	100(110)
10トラブルはなかった	91.8(101)	8.2(9)	100(110)

これまでの調査では、外国人住民が集住してくると、生活習慣上のマナーの相違があるので、日本人住民側からの苦情が多く出るということをよく聞いた。そこで、この“「トラブルはなかった」がほとんどであった”という結果について、団地の役員さんに確認をしてみた。役員さんによれば、苦情はもちろんあるがトラブルにまで発展しないということと、生活習慣の相違によるマナーについては、日本人も外国人に対しても対応は同じであるということが確認できた。

「ああ、そうですね。そりゃあ、ゴミ出しとか騒音とか何かあったら注意しますよ。電話をしたり、コンコンと直接ドアをノックしたりして……。それで『ああ、そうですか』と言って分かってくれる。それは日本人でも同じ。『このゴミは何曜日だよ』とか注意する……。苦情はあるけれど、トラブルということにまで発展しない。私が役員をやってこの5年くらい、別に

大きなトラブルになったことはないですね。お互いに注意しあえばそれで済みますよ。」(町内会役員Aさん。2009年1月、電話でのインタビューによる。)

トラブルは来日回数の多寡によっても、有意な差はない。また日本語の能力によっても差はなかった。また家族居住が多いが、家族の居住形態によっても有意な差はなかった。

この団地に来ている外国人は、本報告書の浅川論文に示されているように、他地域から「豊橋市一般ではなく、このA団地を目指して」来ているらしく、またその理由は、①「派遣会社の紹介」がもっとも多い。②次は、「家族や親戚がいたから」や③「同国人の友人・知人の紹介」など「私的ネットワーク」で来ている。この住宅に到るまでには、多くの経験をしており、既に日本のマナーについてはある程度の心得があるのだろう。

それでは、困っていることは無いのだろうか。自由回答によると、現在困っていることは、まず(1)コミュニケーション、言語関係であると言う。すなわち「日本語を上手に話せないこと」「日本語の能力がないこと」「日本人とうまくコミュニケーションができないこと」などであった³⁾。次に(2)差別・偏見に関わること、すなわち「ブラジル人であることに対しての偏見があること」、さらには、(3)時間がないこと、などであった⁴⁾。

第5節 現在の住宅と地域環境についての満足度

それでは、現在の住宅と地域環境についての満足度はいかがであろうか。「現在、次のどのようなことがらに満足していますか」について、(1)「現在住んでいる住宅」(表18)と(2)「現在住んでいる地域の環境」(表19)についてそれぞれ質問した。

(1)住宅については、「大変満足している」(27.3%、27人、N=99人)と「まあ満足している」(59.6%、59人)をあわせて86.9%が満足している。(2)地域の環境に関しては、「大変満足している」(32.3%、31人、N=96人)と「まあ満足している」(53.1%、51人)をあわせて85.4%が満足している。住宅と地域環境の双方において満足度は高いと言えよう。これらの満足度に対しては、性別、年代、団地内にいる日本人友人の数、日本人の面識のある人の数などによって有意な差はなかった。

表18 現在の住宅の満足度

1 大変満足	27.3(27)
2 まあ満足	59.6(59)
3 少し不満	5.0(5)
4 かなり不満	8.1(8)
合計	100(99)

表19 現在の地域環境の満足度

1 大変満足	32.3(31)
2 まあ満足	53.1(51)
3 少し不満	5.2(5)
4 かなり不満	9.4(9)
合計	100(96)

A団地の住環境は整備されていると認知されているようである。Xさんは、「A団地は、必要なものはみな団地近くにあり住みやすい。スーパー、八百屋、ブラジルの店、薬、タクシー乗り場、

仕事用の送迎バス、公共のバス乗り場……。駅も近いし、治安も良い。とっても住みやすいです……。」Zさんは、「A団地が好きなのは、静かだから……。強盗がない。たばこも酒も嫌い。騒ぐのは嫌い」「『うるさくて不景気で危ない』ブラジルよりも、『静かで安定した稼ぎがあって平和な』日本が良い。」と気に入っているようである。

第5章 母国家族との連絡

第1節 母国家族と連絡をとっているのか

ある程度の落ちつきをもちつつ日本で家族居住している外国人たちであるが、母国にいる家族との連絡はとっているのだろうか。「連絡している」が93.3%（111人、N=119人）であり、ほとんどが連絡をしている（表20）。また、連絡の手段は、手紙（11.5%）は少なく、電話（80.8%）、インターネット（77.9%）が圧倒的である（表21）。1990年代の日系ブラジル人が来日した当初は、国際電話を頻繁にするために休日夜には公衆電話の前に列を作っていたり、固定電話の権利をレンタルするビジネスが流行したり、というようなことがあったことを思うと、隔世の感がある。

表20 母国家族との連絡の有無

1 連絡している	93.3(111)
2 連絡していない	6.7(8)
合計	100(119)

表21 母国家族との連絡の手段

	電話	インターネット	手紙
1 いいえ	19.2(20)	22.1(23)	88.5(92)
2 はい	80.8(84)	77.9(81)	11.5(12)
合計	100(104)	100(104)	100(104)

第2節 どのくらいの頻度で連絡をしているのか

では連絡をとりあっている頻度はいかがであろうか。連絡の頻度は、多い順に「1ヶ月に1回」（27.6%、29人）、「1週間に1回」（22.9%、24人）、「1週間に2、3回」（18.1%、19人）などであった（表22）。電話による連絡では、「1ヶ月に1回」が最も多いが（30.9%、25人、N=81人）、インターネットでは、「1週間に1回」（25.0%、20人、N=80人）、「1週間に2、3回」（22.5%、18人）、「1ヶ月に1回」（18.8%、15人）と高い頻度で連絡をとりあう人が多くなる。手紙で連絡を取る人は全体で12人しかいない。インターネットを利用している人が、電話や手紙を利用している人に比べ、最も頻繁に連絡をとりあっていることが明らかになった。いずれにしろ、なんらかの手段で頻繁に連絡をとっている様子がうかがえる。

表22 母国との連絡の頻度

	合計※1	電話	インターネット	手紙
1 ほとんど毎日	11.4(12)	8.6(7)	12.5(10)	0.0(0)
2 1週間に2、3回	18.1(19)	18.5(15)	22.5(18)	8.3(1)
3 1週間に1回	22.9(24)	21.0(17)	25.0(20)	41.7(5)
4 2週間に1回	13.3(14)	14.8(12)	15.0(12)	25.0(3)
5 1ヶ月に1回	27.6(29)	30.9(25)	18.8(15)	8.3(1)
6 2、3ヶ月に1回	2.9(3)	3.7(3)	2.5(2)	8.3(1)
7 半年に1回	3.8(4)	2.5(2)	3.8(3)	8.3(1)
合計	100(105)	100(81)	100(80)	100(12)

(複数回答によるので、電話、インターネット、手紙の合計が※1と一致しない)

以下で、3人のインタビューを紹介するが、頻度は各様である。

Xさんは、ブラジルの兄弟と日常的に頻繁に交流をしている。「ブラジルの兄弟は6人います。私以外は皆ブラジルに在住しており、日本に来たのは私だけです。皆、良い職業に就いており、日本に来る気はなかった。」「ブラジルにいる妹とはとても仲良しなので、よく長電話をしてしまう。電話だと料金が大変なので普段はメールにしようと思っている。」Yさんもブラジルの義母と交流している。「主人のお母さんは主人がいなくて寂しいのか、毎週電話をしてくる。」Zさんは、ブラジルにいる家族とはたまに連絡するのみである。「1年に2～3回はブラジルにいる兄に電話する。」「兄たち（ブラジルにいる実の兄2人）にも10年会っていないけれど寂しくはない。家族と一緒にいるから。」

第6章 日本へとどまりたいと思っているのか

第1節 日本へとどまりたいか

さて、長期滞在が特徴となってきたが、定着へのプロセスについては、浅川論文に詳しい分析がされているのでそれを参照してほしい。浅川によると、最初から「定住」を予定して来日して来た「定住」志向性をもったグループと、「滞在の長期化」したグループがあると考えられる。

日本にこのまま滞在するのか、あるいは帰国するのかについては、さまざまな条件に関連するが、今後のことについて希望を聞いてみた。「ビザとは関係なく、あなたは日本にとどまりたいと思いますか」と質問した。これによると、「ブラジル帰国希望派」(16.8%)、「条件付きブラジル帰国希望派」(52.5%)、「条件付き日本滞在希望派」(18.8%)「日本滞在希望派」(11.9%)となる(表23)。なんらかの条件が叶うかどうかは別として「帰国希望」者は69.3%で、全体の7割に迫る。

質問文では「ビザとは関係なく」と仮定して聞いているが、実際には、「条件」についてはそれぞれ厳しい。「母国の経済状態が改善したら帰国する」(11.7%)については、自力では何ともならないし、「お金が貯まったら帰国する」(25.3%)では、生活をし、子供の教育をしつつ、貯金することは困難が伴う。また「高齢になったら帰国する」(10.8%)は、遠い将来のことである。日本に残りたいと希望する人についても、「良い仕事があったら残りたい」(8.1%)、「日本の習慣に慣れたら残りたい」(6.3%)、「家族が来日できたら残りたい」(2.7%)などについても、不安定要素がつきまとっていることが明らかである。

これらの滞在希望、帰国希望と今後の日本での滞在希望年数をクロスしてみると、「帰国希望者」

は、滞在予定期間は短めである(表24)。帰国希望をもちつつ、さまざまな条件や事情によってやむを得ず滞在しているということであろう。

表23 日本にとどまるのか

1 何があっても帰国	15.3(17)	1 ブラジル帰国希望	16.8(17)
2 母国の経済状態が改善したら帰国	11.7(13)	2 条件付きブラジル帰国希望	52.5(53)
3 貯金ができたら帰国	25.3(28)		
4 高齢になったら帰国	10.8(12)	3 日本滞在希望	11.9(12)
5 とにかく日本に残りたい	10.8(12)	4 条件付き日本滞在希望	18.8(19)
6 良い仕事があったら残りたい	8.1(9)		
7 家族が来日できたら残りたい	2.7(3)	合計	100(101)
8 日本の習慣になれたら残りたい	6.3(7)		
9 その他	9.0(10)		
合計	100(111)		

表24 滞在予定×滞在予定期間

	滞在予定期間			合計
	1～4年	5年以上	定住予定	
1 ブラジル帰国希望	20.0(6)	29.0(9)	3.7(1)	18.2(16)
2 条件付き帰国希望	66.7(20)	54.8(17)	22.2(6)	48.9(43)
3 日本滞在希望	0.0(0)	0.0(0)	44.4(12)	13.6(12)
4 条件付き滞在希望	13.3(4)	16.1(5)	29.6(8)	19.3(17)
	100(30)	100(31)	100(27)	100(88)

$\chi^2=0.00$

また日本語能力と滞在希望には有意な差がなかった。ただし、上で見たように「困ったこと」の筆頭に「コミュニケーション、言語関係」が挙げられていることからみると、日本語能力があつて困ることはないが、なくて困ることは多い。日本語能力があれば、定住したい場合は、大きな力になるが、日本語能力が無ければ、定住に当たって困ることは多いであろう。定住の方向を決める大きな要因が、家族特に子どもである例は多い。

3人のブラジル人の方に定住希望について質問した。3人とも流暢な日本語を話す。Xさんは、最初は3年で帰国する予定で来日したが、その後は定住希望である。Yさんは、夫と子どもさんは定住希望、本人は帰国希望をもちつつ長期滞在している。Zさんは本人も奥さんも定住希望である。以下に詳述する。

Xさんは、1991年に息子さん、娘さん（当時共に10歳代）の3人で来日した。「最初は3年くらい働いてお金を貯めて帰国し、ブラジルに家を買ひ、子どもの学校を継続させようと思っていた。3人でしっかり働いて、航空チケットは3ヶ月で支払った。」「しかし働いているうちに子ども達も日本に慣れ、『もうここにいる』というので、そのまま日本にいる。来日当初は静岡県で働き、2年目にA団地に来て3人で暮らし、それ以来15年たっている。息子も娘も『日本が良い』というし、息子もブラジルの友達とは話が合わないというので、もうブラジルには帰らない。帰るとしたら、私が遊びに行くだけ・・・。」と定住を決意している。

Yさんは、17年間日本に滞在しており、ご主人や子ども達は日本での生活の方がなじんでおり、日本での滞在を希望しているが、Yさん自身はブラジルでの生活の方を望んでおり、家族の中でYさんだけが帰国希望を持ち、やむなく、長期滞在になってしまっている。「日本にやってきた古く

からの友達は、家を買っている。『家を買わないか』とよく言われるが、私はブラジルに帰るつもりだし、ローンを組むには年をとりすぎている。家を建てるつもりはない。」

Zさんは、本人も奥さんも、最初から定住するつもりで来日している。このまま、日本にいてもよい。Zさんは日本の治安の良さが気に入っている。「ブラジルに帰る気は最初から無かった。不景気と治安の悪さ、このふたつが嫌。子どももブラジルに帰りたいと言わなかった。家族で来ているので寂しくない。」「子どもたちは、現在は帰国するかどうか迷っている。日本で家を買おうかとも思っているようだ。今はお金を貯めているところ。息子2人が言っている。『ブラジルには行きたくない』『日本の女性と結婚したい』『ブラジルでは食っていけない』・・・。」「長女は、両親のそばにいたいと言う。それが良いね。」

第2節 現在の場所に住みたいのか

それでは、日本での滞在が長期化している現在、どこに住居を定めるのか。「あなたは、日本にいた間は、現在の場所に住みたいと思いますか。」について、無回答の9人を除いて全員が「現住所に居住希望」であった（112人、92.6%、N=121人）。「別の場所に移りたい」「必ず別の場所に移らなければならない」と答える人はいなかった。

その理由については、「日系人が多くて情報が得やすいから」（62.0%、N=108人）が最も多く、次に「家賃が安いから」（50.9%）、「日本人が親切だから」（32.4%）と続く。「新たに家を建てるから」（3.7%）という中立的な理由の転居希望者を除けば、「家賃が高いから」「外国人にとって住みにくい所だから」「人間関係が悪いから」というような否定的な理由をあげる人はいなかった（表25）。

表25 現在の場所にいたい理由、いたくない理由

	低家賃	情報が多い	日本人が親切	新居建築	高家賃	住みにくい	人間関係が悪い
1 いいえ	49.1(53)	38.0(41)	67.6(73)	96.3(104)	100(107)	100(108)	100(108)
2 はい	50.9(55)	62.0(67)	32.4(35)	3.7(4)	0(0)	0(0)	0(0)
合計	100(108)	100(108)	100(108)	100(108)	100(107)	100(108)	100(108)

第7章 日本語能力

第1節 日本語能力への認識

日本での生活は、日本語の能力が伴えばより円滑になるであろう。外国人の人達は自分自身の日本語能力をどのように認識しているのだろうか。全体的に、日本語能力は予想よりも高いレベルであると認識していることが明らかになった。ほとんどコミュニケーションができないという認識の人はわずかである。以下に詳述する。

日本語能力においては、(a)会話においては流暢に話せる人は少ないが、「簡単な内容なら話せる」も含め、何らかの意志を相手に伝えることができると認識している人の合計は91.6%と多い（表26）。(b)読むことにおいては、「ひらがなやカタカナが読める」以上の能力を有していると認識している人は全体の約7割近く（67.6%）いる（表27）。(c)聞くことについては約96%がわかり、おおよそそのコミュニケーションができることがわかる（表28）。(d)書くことについては、他の要素

より難しいようで、「1. どんな文章でも書ける」(1.8%、2人)や「2. 手紙が書ける」(0.9%、1人)はわずかであり、「3. 簡単なメモが書ける」(35.5%、39人)も含めて合計38.2%が書くことによるコミュニケーションができると認識している(表29)。

他方 (a)会話が「4. ほとんど話せない」(8.4%、10人、N=119人)、(b)読むことが「5. 何も読めない」(32.4%、35人、N=108人)、(c)聞くことが「5. ほとんど何もわからない」(3.8%、4人、N=104人)、(d)書くことは「5. 何も書けない」(34.5%、38人、N=110人)などをみると、全くコミュニケーションができないと認識している人はわずかである。また、読むことと書くことにおいて、不得意である点が読み取れる。

表26 日本語能力(a 会話)

1 流暢に話せる	9.2(11)
2 かなり話せる	48.7(58)
3 簡単な内容なら話せる	33.6(40)
4 ほとんど話せない	8.4(10)
合計	100(119)

表27 日本語能力(b 読む)

1 新聞が読める	0.9(1)
2 簡単な雑誌が読める	7.4(8)
3 漢字が読める	2.8(3)
4 ひらがなとカタカナが読める	56.5(61)
5 何も読めない	32.4(35)
合計	100(108)

表28 日本語能力(c 聞く)

1 テレビのニュースがわかる	7.7(8)
2 日常生活の話題がわかる	26.9(28)
3 毎日の仕事のことがわかる	21.2(22)
4 基本的なことならわかる	40.4(42)
5 ほとんど何もわからない	3.8(4)
合計	100(104)

表29 日本語能力(d 書く)

1 どんな文書でも書ける	1.8(2)
2 手紙が書ける	0.9(1)
3 簡単なメモが書ける	35.5(39)
4 文字がいくつか書ける	27.3(30)
5 何も書けない	34.5(38)
合計	100(110)

第2節 日本語教室に通う意志があるのか

「日本語を十分に使いこなせない方」に対して、「日本語を使いこなせるようになるために日本語学校やボランティアがおこなう日本語教室などに通いたいと思いますか」という質問をしたところ、「通いたい」と答えた人が66.7% (58人、N=87人) となった(表30)。「現在通っている」人は5.7%(5人)、「通うつもりはない」人は6.9%(6人)であった。日本語教室に通いたいと答える人と各能力との相関には有意な差はなかった。

「通う意志がない」という人にその理由を聞いたところ、「習いたいが時間に余裕がない」が最も多く（30.4%、7人、N=23人）、次に「現在の日本語能力で十分であり、特に必要を感じない」が3人であった（13.0%）であった（表31）。

表30 日本語教室への通学意志

1 通いたい	66.7(58)
2 現在すでに通っている	5.7(5)
3 通うつもりはない	6.9(6)
4 どちらとも言えない	20.7(18)
合計	100(87)

表31 日本語学校への通学意志「無し」の理由

1 現在の日本語能力で十分なので不要	13.0(3)
2 同国人との会話が中心なので不要	4.3(1)
3 習いたい時間が余裕がない	30.4(7)
4 習いたい面倒	4.3(1)
5 習いたい適当な所がない	4.3(1)
6 いずれ日本を離れるのだから不要	8.7(2)
7 独学するつもり	8.7(2)
8 日本語教室がどこにあるか知らない	0(0)
9 その他	26.0(6)
合計	100(23)

第3節 日本語能力と日本人との交流

それでは、日本語能力があるということは日本人との交流にどのような影響を与えているのだろうか。

まず、「a 会話能力」については、「日本人の友人の有無」や「友人数」には有意な差がなかった。その半面、「団地内の面識のある人の有無」については、有意な差があった。会話能力は最も直接的に人との関係を左右するのかもしれない。「b 読む能力」については、話す能力のように自然に身に付くという面よりも、自分一人での努力が必要であり、また、読めなくても話すことはできれば、日本人との交流にはあまり影響はしないのかもしれない。「c 聞く能力」については、「日本人の友人の有無」と「日本人の友人数」に有意な差があった。「d 書く能力」については、「日本人の友人の有無」や「面識ある日本人の有無」、そしてそれぞれの人数などいずれにも有意な差がなかった。

これらを見て言えることは、日本語能力については、「話す能力」と「聞く能力」が、「日本人の友人の有無」に影響を与えているが、団地内で「面識がある」という関係になるには、それほどの日本語能力は必要ないのではないか、ということである。日常的な挨拶や環境美化活動を共にしているうちに、「いつも同じような時に、同じような場所で会う」という関係ができ、何となく顔見知りという関係が成立していき、日常的な近隣関係程度の相互行為は成立していつているのではないか。他方、「友人」になるのには、もう少し込み入った話をすることによって、関係が成立するのであろう。

A団地という居住空間で、日本人と外国人とのコミュニケーションについて考えると、高度な言語能力や行為は必要ではなく、簡単な挨拶とポルトガル語に翻訳した回覧板があれば、行事の概要は理解できる。日本人も簡単なポルトガル語を覚え、町内会行事を共に行えば、「友人」にはな

れなくとも、「面識ある人」にはなれるのであろう。その点に関しては、この団地では役員の努力は大きいと言える。以下のような努力もしている。

「A団地では、愛知県の住宅課から補助をもらって、携帯用の会話集を作った。老人会から要請が出て、アイデアを練った。」「私はこれ（携帯用会話集）を持っていて、ブラジルの方と会うと、『おはよう』、『こんにちは』ぐらいは、私は何年も前からやるのですが、『ツツベン』（＝お元気ですか？の意）とかやると、向こうもにこっと笑って、“やるな”という顔して・・・、そういうことから少しずつ、胸襟を開くというか・・・。」（町内会役員Aさん。2006年インタビューによる。）

第8章 子どもの教育への希望

第1節 子どもの学歴への希望

親は子どもたちに対して、教育面でどのような期待をしているのだろうか。日本に滞在する親たちの子どもへの教育の期待は、常に親たちの心にある問題であろう。

本人の性別、世代、年代、学歴、子どもの数と「希望する子どもの学歴」との間に有意な差はなかった。小中学生などの学齢期に来日した場合、教育を継続していくのは困難であろう。「大学まで」（35.7%、30人）、「大学院まで」（25.0%、21人）を希望する親は多いが（表32）、実際にはどうか。

日本での現状をみると、日本の学校制度の中で、小学校から中学校、高校と進学していくのは、けっこう高いハードルである⁵⁾。

表32 子どもの学歴への希望

1 義務教育まで	6.0(5)
2 高校まで	13.1(11)
3 専門学校まで	3.6(3)
4 短大・高专まで	8.3(7)
5 大学まで	35.7(30)
6 大学院まで	25.0(21)
7 その他	8.3(7)
合計	100(84)

第2節 どの国の学校に子どもを行かせたいか

大人たちは、子どもがどの国の学校へ行くことを希望しているのだろうか。「日本の学校」（56.2%）、「ブラジルの学校」（32.9%）、「どちらでも良い」（11.0%）の順であった（表33）。

国への希望があるのは、現在子どもの教育費を「負担」と感じている人に有意差があった。子供の数や、性別、世代（1世か2世か、など）、本人の最終学歴、国籍による有意差はなかった。

表33 どの国の学校に子どもを行かせたいか

1 日本の学校	56.2(41)
2 ブラジルの学校	32.9(24)
3 どちらでもかまわない	11.0(8)
合計	100(73)

第9章 日本の生活での達成度

第1節 どのような分野でどの程度の達成感を得ているのか

外国人の方達は、苦勞も多く多忙な毎日の中で、来日当初の目的や夢、希望をどのように達成しているのでしょうか。日本での生活について、それぞれの分野でどの程度の達成感を得ているのかをみてみよう(表34)。「A 貯金や仕送りができた」については、「あまりできていない」(36.7%)が最も高く、「まあまあできている」(32.7%)、「十分出来ている」(15.3%)と続く。「B 仕事上の技術や技能を身につけた」については、「まあまあできている」(48.9%)が最も高い。次に「十分できている」(28.3%)が続く。「C 日本式の仕事のやり方を身につけた」についても「まあまあできている」(45.1%)が最も高い。「D 日本語を身につけた」については、「まあまあできている」(39.4%)、「あまりできていない」(36.2%)と続く。「E 日本の文化や社会の知識が広まった」については、「まあまあできている」(36.2%)、「あまりできていない」(31.9%)と続く。「F 日本人の友人や知人が増えた」については、「あまりできていない」(30.8%)が最も多く、「まあまあできている」(29.7%)がこれに続く。

さまざまな分野の中で、「十分できている」と答えた人が多いのは、「仕事上の技術や技能を身につけた」、「日本式の仕事のやり方を身につけた」「日本の文化や社会の知識が高まった」「日本人の友人や知人が増えた」などの分野であるが、これらの分野は日本で就労し、生活しているうちに体得できる性格のものであろう。

表34 日本での生活の達成度

	貯金・仕送り	仕事技術	日本式仕事	日本語	日本文化	日本友人
1 十分できている	15.3(15)	28.3(26)	29.7(27)	12.8(12)	23.4(22)	23.1(21)
2 まあまあできている	32.7(32)	48.9(45)	45.1(41)	39.4(37)	36.2(34)	29.7(27)
3 あまりできていない	36.7(36)	16.3(15)	18.7(17)	36.2(34)	31.9(30)	30.8(28)
4 全くできていない	15.3(15)	6.5(6)	6.6(6)	11.7(11)	8.5(8)	16.5(15)
合計	100(98)	100(92)	100(91)	100(94)	100(94)	100(91)

第2節 どのような人が達成感を味わっているのか

それではどのような属性の人が、どのような分野の達成感を味わっているのだろうか。年代によって「A 貯金や仕送りができた」において有意な差があった。「貯金や仕送り」は、性別や学歴には関連がなかった。

興味深かったのは、ブラジル国籍の人は、「C 日本式の仕事のやり方を身につけた」「D 日本語を身につけた」「E 日本の文化や社会の知識が広まった」において、達成感が有意に高かった。同様に、2世の人は「E 日本の文化や社会の知識が広まった」にも、有意に差があった。他に性別や学歴などにおいては有意差はなかった。これらから見ると、日本式の仕事のやり方や技術、文化などは、それらへの距離があった人たちに達成感があったと解釈できる。また日本に定住する志向の人は「F 日本人の友人や知人が増えた」に有意に差があった。来日後、多くの困難に直面しつつ、一步一步努力し、目的を達成してきた様子がうかがわれる。

まとめ

A団地に居住する日系人の生活は、早朝から夜遅くまで労働にいそしんでおり、通常の近隣関係をもつ時間はあまりないようである。しかし、日本人住民の求める町内会活動として組長や自分たちの能力を活かした専門委員会をおこない、環境美化活動などの行事に参加し、挨拶をしながら暮らしている。町内会活動や挨拶以上のふみこんだ「友人」関係にはあまり至らないが、「面識のある」日本人を複数名もっている。A団地は概ね居心地良いようで、満足度は高いようである。

定住に関しては、帰国希望を持ちつつ現実的には長期滞在化している人が7割いるが、定住を希望している人も約3割いる。いずれも条件次第であろう。落ち着いた生活を営んでいるようであるが、母国の家族との交流も継続している。

追記

本稿は、2006年におこなった調査をもとにしており、2009年1月に脱稿している。2008年の秋冬以降の経済危機は、日本で生活する多くの外国人労働者や豊橋市、そしてこのA団地に居住する日系ブラジル人も直撃しているという。1月段階では、町内会役員さんによると、「まだ、あまり大きな変化は見られないようだ。『続々と帰国している』という話も聞かないし、職を失って所在なげに団地内をぶらぶらしている、という様子もあまり見られない。しかし、ハローワークから職業相談をするために出張所を出して相談に乗ってもらうように考えているとか、団地内に日本語教室を作ろうと計画している。」ということである。その後の大きな変化については、また調査が必要であろう。今回は、それまでの状況を書いたということで、承知されたい。

注

- 1) Xさん（女性、60歳代、2世）は、ご両親共に1世。父親は熊本出身、母親は札幌出身、本人以外のご兄弟はみなブラジルに在住している。ブラジルで経理も勉強し、大学にも通っている。1991年に来日した当初は静岡に住み、2年目にA団地に居住して以来、15年住んでいる。流暢な日本語を話すことができる。定住志望。
- 2) Yさん（女性、40歳代、2世）は、ご両親共に1世。ご両親は日本からブラジルに行く船の中で知り合ったという。Yさんはサンパウロ生まれ。リオで暮らしたこともある。ご主人は非日系のブラジル人。ボランティアで通訳や翻訳をするほど、日本語能力は高い。Zさん（男性、60歳代、2世）は、パラナ生まれで後にスザノへ移動。5人兄弟で兄2人は在ブラジル、弟はZさんの後で来日した。奥さんと子ども3人で来日したが、共に日本に定住するつもりである。最初からA団地を目指して来日した。A団地の居住歴は10年。奥さんは非日系のブラジル人。「飛行機代は借金して用意したが、来日後4～5回で返した。」来日後最初の5年間は湖西市のスズキで就労、その後、現在のJという会社に就労している。長男も次男も自動車関連企業に就労している。
- 3) 団地に居住するXさんに聞いてみた。Xさんは流暢な日本語を話すので、日本語に関して困ったことはない。「日本へ来て『困った』ということはない。」と言う。日本での生活で思うこ

とは、「苦労はしているがブラジルでの我慢より良いと思っている」「他のブラジル人から、『すごく苦労している』ということは聞かない。ブラジルにいるときには、貧しいからみんな我慢している。お金のことも夫のことも……。日本に来たら変わる。お金も沢山もらえるし、夫がうるさくなって、もう我慢しない。女の人がどんどん変わる。髪も染める。派手になる。40代も50代も60代も……。皆楽しくて夫と別れる。携帯電話も使うし、儉約できず、別れる……。私と同じくらいの年の人もどんどんきれいになって別れるよ……。」Xさんは、息子さん夫婦が近くに住み、また娘さんも近隣の市に住み、毎週会いに来てくれる。現在はアルバイト程度の仕事をして、心穏やかな生活を楽しんでいるようである。多くの苦労と努力の結果の心境であるのかもしれない。

- 4) 時間が足りない、ということについては、これまで聞いた話では、例えば団地では、「早朝から乳幼児をブラジル人専用の託児所からの送迎車に託すやいなや、自分も仕事に出かける主婦の姿をよく見ますよ。本当に朝から晩までよく働くね」という日本人住民の声を聞いた。その託児所の方では、ブラジル人保育士が、「早朝迎えに行き、それから子どもに朝ご飯を食べさせ、10時におやつを食べさせ、お昼、3時のおやつ、夕食まで食べさせ、夜帰宅させる、という体制で子どもを預かっているのは、忙しい親の代わりをなるべくしたからです。」という声も聞いた。残業が少なくなっているが、それでも多忙なのは変わらないようである。
- 5) Yさんの子どもさんたちは、日本で中学校、高校、専門学校とすすみ、一人は正社員として採用されている。3番目の子どもさんもいずれ専門学校まで行くだろうとYさんは考えている。「本当は3人とも大学へ行かせたかったけれど……。」Yさん自身の希望は高く、専門学校までというのは本意ではないようだが、他の日系人家族と比較すると教育面では、うまくいった例であろう。